

十六夜（いざよい）

2023. 9. 15
美幌町図書館長 竹花 史康

十六夜は、十五夜の次の日に現れる月のことです。今月の十五夜（中秋の名月）は、9月29日ですから、十六夜は9月30日となります。

月は1日ごとに50分ほど遅れて出てきます。そのため十五夜よりためらいながら出てくる十六夜を、「ためらう」と言う意味の名詞、「いざよい」と呼ぶようになったようです。

美しい中秋の名月を鑑賞しつつ、ためらいながら登ってくる十六夜にも心寄せ、昔の日本人の感性は本当にすばらしいと思います。

十六夜といえば、やはり阿仏尼（あぶつに）の「十六夜日記」が思い浮かびます。歌人である阿仏尼は、その日記の中にたくさんの短歌を残しましたが、10月16日からはじまっていることから、後に「十六夜日記」と呼ばれるようになりました。その中なかで、十六夜がでてくる一首を紹介します。

ゆくりなくあくがれ出でし十六夜の
月やおくれぬ形見なるべき

（思いがけずあなたがお出かけになった十六夜の月が、あなたに遅れずについていく都の形見でありましょうか）

最後に、十六夜を詠んだ松尾芭蕉の俳句を一句紹介します。

十六夜は わずかに闇の 初め哉（はじめかな）

（昨夜は満月の十五夜であったが、今宵は十六夜。わずかながら暗闇に向かって月は欠け始めるのである。その始まりが今夜だ）

今年は、十五夜もさることながら、十六夜の月を眺めながら月見酒といきたいものです。